

いきものみっけ

News.
Vol.14

発行：いきものみっけファーム滋賀推進協議会
電話：090-7966-2262 FAX：0748-68-0598

編集：事務局 竜王 住所：甲賀市土山町黒川
E-mail:ryuoh-mtm@maia.eonet.ne.jp 平成27年7月20日



「冷たいね」「気持ちいいね」「なんか動くものがいたよ」話しながら歩く参加者さん。親のほうもけっこう楽しんでいます。

七月十二日の寺子屋は、久しぶりの川遊びをしました。近年、裏に川があつても川にはなかなか行くことがない子どもたちが、野洲川の上流(山内川)で川遊びをしました。

冷たい水を感じながら川を登るとやや深めで淵のような流れの水たまりもみつけ。ライフジャケットを着ているので、自分が水のように流れしていく「川流れ」を味わう子どももいました。



ただ、いつの時代も川の恵みと川の脅威は裏腹です。台風や大雨の時には、人や家も奪ってしまった川です。身近な川ですが、川に入り、川と向き合うことで、命の大切さや自然のしくみに触れる機会となりました。

安全面には、地域の方々の強力な監視体制と優しい見守りを受け安全に行う事ができました。ありがとうございました。

今日は私も、川が好きだよ



化石も見つけたよ
約一七〇〇万年前には、この辺りは海だったそうです。今でも貴重な化石は川にあります。良く見れば、貝がついた石を見つきました。山内公民館横の六友館の化石の部屋にはもっとたくさんの中古と説明があります。

川にいた生きもの
アジメドジョウ
オウミコシノボリ
タカハヤ カワムツ
カワニナ カジカガエル
アマガエル サワガニ
コオニヤンマの幼虫
コヤマトンボの幼虫

川にいた生きもの

古きに聞一う

昔と今の川の違い



夏休み企画として(短時間でしたが)、地元の野尻清さん(八六歳)に「この辺りの川の話」を聞きました。



★昔いた生きもの
今と大きく違うのは、アユがたくさんいたこと。この時期なら、川に足をつけたら、ウヨウヨいた。今、絶滅危惧のアカザ、ギギ、ドンコ、ナマズ、カジカ、ヨシノボリ、メダカ、カワムツ等今よりもアユなどがここまで上がったくなりました。

★どうして、川に生きものが減ったの?
・湖南市石部に頭首工(とうしゅこう)ができるから、琵琶湖からアユなどがここまで上がってきた。こなくなった。



・人間の知恵と合理化で、田んぼにキツイ除草剤をまく時代があつた。一気に生きものは減った。今は環境に配慮して農薬を減らしているが、すぐには生きものは戻ってこない。

★昔の川遊びの思い出
・川ではウナギがとれたから、仕掛けをして朝に見に行つた、ウナギは家で食べた。
・夏は、午前中は寺で勉強した、午後からは川に行く、男女関係なく川に入る、川には淵があり、かなり深い場所もあつた。そこから、「度胸試し」に飛び込む。川の見守りや指令は上級生。

【おじいさんの話を聞いて】

- ・おじいさんの話はわかりやすく、二人で話をされたので、おもしろく、大人が聞いても楽しかったです。
- ・おじいちゃんの話は、自然や遊びが昔と違う事を考えさせられます。
- ・親世代からするとちょうど祖父くらいのおじいさんからの話は、自分の祖父から聞いた話と同じであった。
- ・勉強になりました。



国道1号線・石部付近から野洲川を見ると頭首工があります

石部頭首工
鈴鹿山系から流れてきた野洲川の水は、甲賀市水口町で松川と合流する、その後、守山、野洲の広大な地帯に流れゆくように堰が設けられ、川の水を集め、田んぼに用水を送る施設。

7月の田んぼのいきもの

毎月同じ場所でのいきもの観察、メンバーのお子さんはどこに生きものがたくさんいるか、秘密の地点を覚えた子どもたち。どんな生き物が見つかったかな?

田んぼ・水路で見つけたいきもの

タカハヤ カワムツ
ニシシマドジョウ
シマドジョウ アマガエル
コオイムシ

シオカラトンボ属の幼虫

アカハライモリ(成体・幼生)→6月に比べると

減っていたね

ミミズ類(フトミミズ科?)

タニシ類 カワニナ

